

桜のつばみも膨らみ始め、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。
本日は、長鶴学長を始め、諸先生方にご臨席賜り、私たちのためにこのような厳粛な式典を催して頂き、別科助産専攻修了生一同心より御礼申し上げます。

1年前の春、私たちは助産師への強い志を胸に、別科助産専攻の8期生として入学致しました。本日、修了生として1人も欠けることなく参列できることを大変うれしく思います。

初めて顔を合わせた時は、お互い緊張してぎこちない会話をしたことを覚えています。1年間を通し、同じ目標を持つ仲間として、助産師に必要な技術や知識について共に学びを深め、悩み、切磋琢磨し合い、今では、信頼できる仲間となりました。

分娩介助実習で、初めての分娩に付いた際、長時間の陣痛に耐え、出生した新生児の産声を聞いた瞬間、思わず涙しました。その場の緊迫感や抱き上げた際の新生児の温かさは今でも鮮明に覚えています。同時に、母子の命を預かる助産師の責任の重さを痛感しました。始めは何もできない自分の不甲斐なさに悔しさを感じる場面が多くありました。例数を重ねるごとに、指導者の方や先生からのご助言の下、分娩進行状態を評価し、産婦に必要な助産ケアを自分なりに実践できるようになりました。

先生方を始め、指導助産師の方々には、厳しくも温かいご指導を頂きました。また、未熟な私たちを快く受け入れてくださった妊産褥婦さんやそのご家族にも、心より感謝申し上げます。

これから私たちは助産師としてそれぞれ新しい道へと歩んでいきます。時には、壁にぶつかり悩み苦しむこともあると思います。その際は、「どのような助産師になりたいのか」を思い出し、初心に返り、自分を奮い立たせたいと思います。ここで出会った仲間は私にとって大切な宝物です。

本日この晴れの日を迎えることができたのは、教職員の皆様のお陰だと存じます。別科助産専攻修了生一同、改めて御礼申し上げます。そして、学びの機会を与え、応援してくれた家族にも感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、宮崎県立看護大学の益々のご発展と、ご指導くださいました先生方の御健康と御活躍並びに在校生の皆様の一層の御健闘を心からお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和7年3月17日

別科助産専攻修了生代表 國部祐圭